

東久留米市立久留米中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では思考力・判断力・表現力に対して、知識・技能の得点が3ポイントほど低くなっている。また、毎週行っている漢字テストでも得点が5割にとどまっており、漢字・文法など反復練習を必要とする学習への取組に課題の見られる生徒の割合が5割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の方法（できないものにチェックをつけて繰り返し練習するなど）を教えたり、実際に授業内に練習する時間を設けて指導して、小テストの正答率を6割以上にする。 教科書の「言葉」や「漢字」の単元では、過去に出てきた漢字も押さえて反復しながら知識を身に付けられるようにして、定期考査の言語に関する単元の正答率を6割以上にする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着に課題が見られる生徒が3割ほどいる。 思考・判断・表現力の設問に対する正答率は40%程度にとどまっている。 自分で新たな考え方や規則を考え出すことが課題であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進行に合わせ、定期考査、課題の内容で定着度を確認する。 基礎の定着の確認として、朝学習や小テストを実施する。定着率70%を目標にする。 	
(外国語)	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く学習に取り組もうとする姿勢や姿勢や、既習事項の定着に課題が見られる生徒が約4割いる。 副教材等の一層の活用を図り、語彙と文法の定着を図った上で表現活動につなげる必要があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつできなかったことができるようになり、進歩したことが学習の動機づけとなるように、できることを明示する。 定期テストや英検IBAの結果などに基づき、各自の課題が何であるかを、適宜示す。年度末までに英検4級相当の力を持つ生徒が4割を超えることを目指す。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科室の実験道具への興味・関心がある生徒が8割を超えているが、学習に意欲的に取り組む生徒は50%程度である。また、生徒実験の経験が不足している。 物理分野の小数点を含む計算、元素記号など基礎につまづきがある生徒が50%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着のため、週に1回程度小テストを行い家庭学習を促す。定着率70%を目標にする。第3学年教科書に掲載されている実験の80%を行い、見通しをもって観察、実験を行う力を向上させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業で既習した内容を朝学習に出題し、考査試験への布石としているが、平均が50点前後と基本的知識の定着率に課題が見られる。特に説明問題を苦手とする生徒が全体の30%おり、放課後に補習等の必要がある。週1日1時間を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項が社会にどのように繋がっているのかをICT機器や実物を活用した興味・関心を高める授業や教材の工夫に取り組む。 既習した学習内容の新聞記事・SDGs関係から、社会問題に繋げ、自分の意見を表現・伝える力を育む。募金などの安易な回答ではなく、持続可能な社会を意識した具体的な取り組みの記述を記入を目指す。 	